



秋晴れの西林寺全景



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖のことば

折れてみて
初めて見えた
鬼の角

折れた思いが
また角になり

報恩講のご案内

報恩講は浄土真宗の開祖、親鸞聖人のご命日をご縁として、み教えを聞かせていただく最も大切な年中行事です。

聖人は自分の努力ではどうにもできない「いのちの現実」を深く見つめ、その解決を阿弥陀如来のご本願の上に問い訪ねてゆかれました。それは聖人を慕って困難な時代も生きてゆかれた、私たちの先祖の皆さまも同様です。それはみ教えに育てられて初めて、人生において「本当に大切なものは何か」が知らされてくることでもありません。

報恩講では、ご尊前には白ではなくて、朱ろうそく(お寺にもあります)を点燭し、普段よりもいいねいにお給仕しましょう。各地区の門徒総代より連絡があると思いますが、予定日にご都合がつかないときは他の日にお参りさせていただきますので、西林寺、または各地区門徒総代までご連絡ください。

坂町外をはじめ、記載のない地域のご家庭には随時お参りいたします。

また、コロナ禍につき、僧侶への茶菓の接待等、ご心配されませんようお願いいたします。

報恩講お参り日程

- 浜宮地区 十月二十日(水)～二十二日(金)
 - 水尻地区 十一月四日(木)
 - 植田地区 十一月八日(月)～十一日(金)
 - 森浜地区 十一月十五日(月)～二十五日(木)
(十八日～二十日 仏婦報恩講法座)
 - 西側地区 十一月二十六日(金)～三十日(火)
 - 上条地区 十二月一日(水)～七日(火)
 - 中村地区 十二月八日(水)～十四日(火)
(十日～十二日 西林寺報恩講法座)
 - 刳条地区 十二月十五日(水)～二十一日(火)
- *その他の地域は随時お参りします***

報恩講三寺参り中止

西林寺の所属する安芸北組で毎年開催しておりました「報恩講三寺参り」は、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑みて、昨年にご中止します。

法座案内

- 秋季永代経法座
十月十七日(日) 昼席より
講師 自然寺 加藤順教 師
- 仏教婦人会報恩講法座
十一月十八日(木) 昼席より
十一月二十日(土) 朝席まで
講師 西林寺 住職
(お斎は中止します)
- 報恩講法座
十二月十日(金) 昼席より
十二月十二日(日) 朝席まで
講師 浄泉寺 加藤一英 師
- 朝席7:00～・昼席13:15～・夜席19:30～

編集後記

ワクチン接種が進めば、コロナ禍は収束する「はず」との予測は、デルタ株の猛威で見事にはずれました。

とはいえ、ワクチンを接種すれば、感染や重症化のリスクも軽減されることは実証され、幾分は気持ちに余裕が生まれた気もします。しかし、この余裕も「はず」の思い込みに終わらねばと願うばかりです。

普厳勧学と大瀛和上(9)

「三業惑乱」という浄土真宗史上最大の内紛は、同派の僧俗にとつては生命以上に重要なご法義の問題でした。そこに身を置き、後に最高学位の勧学に輝くエリート僧侶ともいえる普厳は、村内民衆とは距離を置く存在のように思われますが、その人となりは温厚で、「生き仏様」とも崇められていながら、お朝事のご法話とその後、隠居部屋にて御示談を行うことを日課とする、民衆に寄り添う人物であったと伝えられています。

明治44(1911)年、本願寺より生前の功績に対し、次の追贈を拝受しました。

遵正院普厳

畢生を宗学の研鑽に委し、宗義混乱の秋に際し、至誠己を忘れて大瀛を扶護し、終始師訓を奉じて相承の教義を光闡せし功少なからず、仍て今般特別賞與條例第一條一種二等を追贈す。

龍谷寺務 釋鏡如 師



釋普嚴

聞思録(もんしるく)

新型コロナウイルスの接種率が50%を超えました。トンネルの出口は未だ見えません。この長く続くコロナ禍の中で多くの気づきは、自身を見つめ直す非常に大切なものでした。しかし、そこでの気づきは普遍的なものではなく、一面的利他的な側面をもつものでありながら、その気づきを是とした正義感や価値観は、偏った思考を生み、それはコロナ禍のような非常時には、多様性の豊かさの喪失を招くことになりかねません。

たとえば「不要不急の外出自粛」という言葉は、今なすべき重要かつ緊急なこととは何かを考えることの大切さを改めて気づかせてくれました。しかし、それは効率的に行動することを是とし、非効率なことは遠ざける生き方を推奨することにもつながり、不要不急のことに時間を費やす人に批判的な目を向ける怖さを内在しています。何の用もない非効率な時間であっても決して無意味な時間ではなく、そこに大切な意味があります。時間は目的のための手段ではなく、過程も大切ないただきものです。退屈な時間の中に多くの気づきがあり、人生のすべての時間にはかけがえない意味があるのです。仏教の教えに遇うことで気づかされます。

画工に頭に角の生えた肖像画を描いてもらった話は有名ですが、仏法に遇うことによる気づきには次のような側面もあります。「杖のこぼれ」の折れてみて初めて見えた鬼の角折れた思いがまた角になりは、「角」という自身の内面の姿(我執)に気づかされること、自負心(新たな角)となつてゆくところに、新たな我執を生む人間の心の危うさ、本質があることを教えています。同じく篤信者の榎本栄一さんは、この「角」を「うぬぼれ」と置き換えて、「うぬぼれは木の上からポタンと落ちた落ちたうぬぼれはいつのまにかまた木の上に登っている」と味わっておられます。「角」も「うぬぼれ」も、仏法のお育ての中の気づきです。その気づきがまた、末通らないものかも知れませんが、そこには気づいたという自負心に執らわれてゆく危うさも介在しています。仏法のお育てをいただいても「角」はなくなりません。「ああ、そうか」という気づきを無批判に是とするときに、その気づきは自負心と相まって変質してゆくかも知れませんし、不確かなものかもしれないという視点をもち続けること、つまり、確かだと握りしめたものを相対化してゆくことこそ重要になります。それは聞思する(考える)ことを止めない生き方をするこの他にはないのです。

やわらか法話

ケーブルテレビ(広島県西部限定配信)のちゅピCOM(中国新聞グループ)で、昨年10月より浄土真宗の僧侶の法話を放映する「くちよつとい朝くやわらか法話」という番組が始まりました。

「雨の日の過ごし方」と題された住職の法話の収録が、6月17日(木)に西林寺本堂で行われ、仏婦役員有志がお聴聞しました。このご法話は、7月5日(月)より11日(金)まで、午前6時と午後8時に放映されましたが、坂町内では視聴できませんので、11月5日(金)のお朝事で視聴します。ぜひお参りください。



毎年、宗祖の御正忌とお盆にあたって、仏教婦人会の皆さまのお世話で「御鉢米(西林寺のご尊前へのお供え)」をつないでいただいております。ご懇念、まことにありがとうございます。

仏婦・仏壮 あれこれ

坂町三カ寺仏婦会代表者会議

7月20日(火)西林寺門信徒会館で、宝海寺・西昭寺・西林寺の各仏教婦人会の代表者が集い、意見交換会を行いました。仏教壮年会ではすでに始められています。それぞれの会においては初めての試みです。それぞれの課題を持ち寄り、それを共有し、協力し合うことを目的に、これから毎年三カ寺が当番制で会場を引き受け、交流会を開催することになり、コロナ禍の収束後に向けた大変意義深い話し合いとなりました。

おみがき・清掃奉仕

8月11日(木)仏具のおみがきと清掃奉仕作業を仏婦・仏壮合同(43名)で行いました。孟蘭盆会に皆さまが快適にお参りいただけるように、境内の隅々まできれいにしました。



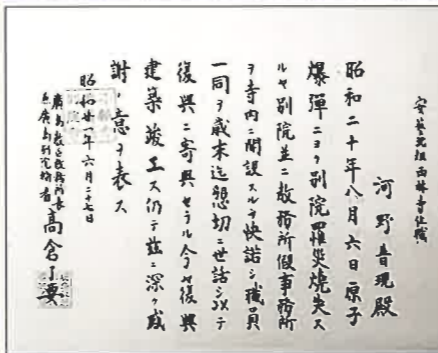
広島別院と安芸教区

「別院」とは「ご本山」の直属の寺院で、地方における教義弘通の中心道場です。ご門主が住職ですので、事務の平常の運営を主管する輪番が置かれています。

広島別院(中区寺町)は、それまで「安芸門徒」と呼ばれる真宗門徒への教化伝道の中心を担っていた仏護寺を改めて、明治35年に設置されました。

本願寺では全国の寺院を31の教区に分け、西林寺の所属する「安芸教区」は広島県の中央から西部一帯の500余りの寺院で構成されています。この教区内の寺院とご本山の連絡の窓口業務を行うところが安芸教区教務所で、広島別院内にあり、輪番が教務所長を兼務しています。教区の名称は必ずしも行政区

感謝状



域の名称と同じになつていません。なお、広島別院及び安芸教区教務所は昭和20年原爆投下によって焼失した折、業務が停滞しないように、西林寺客殿内に一時移転された経緯があります。

初参式のご案内

延期しておりますが合同初参式は、11月20日(土)午前11時より執り行います。初参式は仏前において「いのちの誕生」を親子ともに祝い、その喜びを噛みしめる真宗門徒において大切な儀式です。万障繰り合わせて、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

令和3年7月大雨災害支援

7月に発生した集中豪雨で、熱海地区に甚大な被害をもたらしました。西林寺仏教婦人会及び仏教壮年会では、3年前に坂町を襲った豪雨災害時に多くの皆さまにご支援いただいたことへの感謝として、坂町を通じて義援金を寄付させていただきました。

仏教壮年会行事案内

- 十月九日(土)〜十二日(火) 境内の庭木の剪定
- 十二月二十八日(火) 本堂煤払い
- 十二月三十一日(金) 除夜の鐘・火の番